

取扱説明書

セレックスバルブ

1
2
M4F3 3 0- 08 - n
4 10
8

- 製品をお使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- この取扱説明書は必要な時にすぐ取り出して読めるように大切に保管しておいてください。

本製品を安全にご使用いただくために

本製品を安全にご使用していただくためには材料、配管、電気、機構などを含めた空気圧機器に関する基礎的な知識(日本工業規格 JIS B 8370 空気圧システム通則に準じたレベル)を必要とします。

知識を持たない人や誤った取扱いが原因で引き起こされた事故に関して、当社は責任を負いかねます。

お客様によって使用される用途は多岐多様にわたるため、当社ではそれらすべてを把握することができません。ご使用条件によっては、性能が発揮できない場合や事故につながる場合がありますので、お客様が用途、用法に合わせて製品の使用の確認および使用法をよく理解してから決定してください。

本製品には、さまざまな安全策を実施していますが、お客様の誤った取扱いによって、事故につながる場合があります。そのようなことがないためにも、**必ず取扱説明書を熟読し内容を十分にご理解いただいたうえでご使用ください。**

本文中に記載してある取り扱い注意事項とあわせて下記項目についてもご注意ください。

注意

- 電気配線接続部(裸充電部)に触れると感電する恐れがあります。配線時には必ず電源を切ってから作業をしてください。また、濡れた手で充電部を触らないでください。

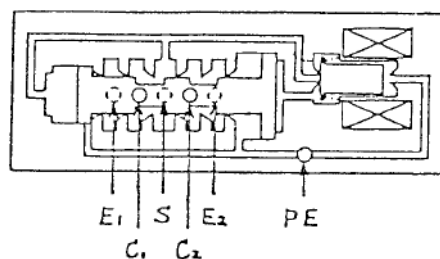
- 取付金具は添付となります。
ご使用時組付けて使用してください。

締付トルク : 5.0~5.5 N・m

動作説明(4F310)

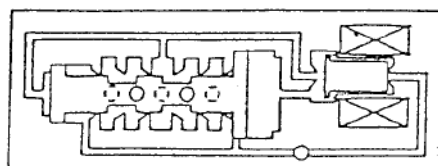
X側通電時

S (SUP) から C 1 (CYL1) へ, C 2 (CYL2) から排気 E 2 (EXH2) へ



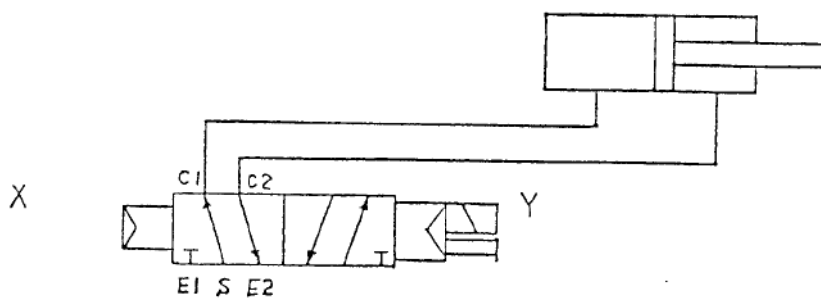
Y側通電時

S (SUP) から C 2 (CYL2) へ, C 1 (CYL2) から排気 E 1 (EXL1) へ

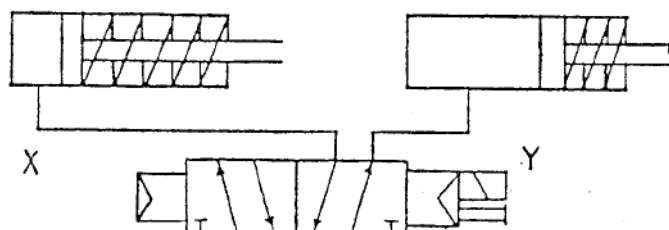


使用・配管方法・適用

- 1-1. シリンダに配管する場合、この電磁弁の C 1, C 2 のポートにシリンダのおのもののポートを接続する。



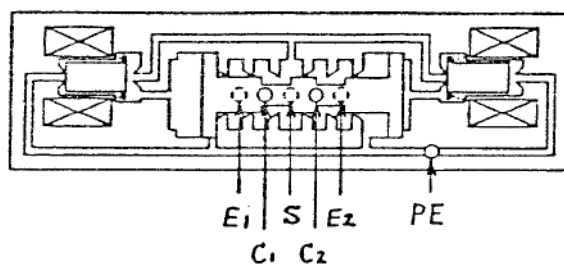
- 1-2. 単動シリンダに使用する場合は、この電磁弁の片側のポートを使用し 3 ポート弁として使えます。



動作説明 (4F320)

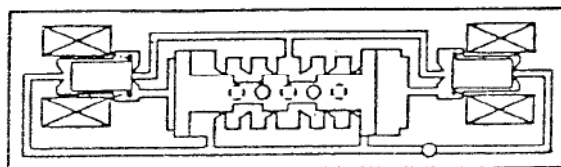
X側通電時

S (SUP) から C 1 (CYL1) へ, C 2 (CYL2) から排気 E 2 (EXH2) へ



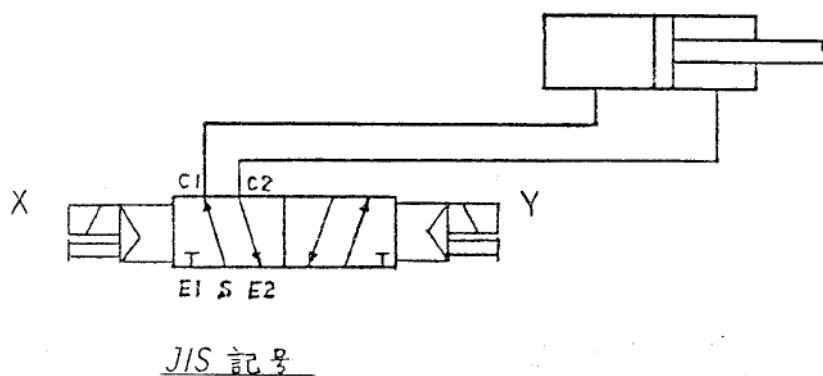
Y側通電時

S (SUP) から C 2 (CYL2) へ, C 1 (CYL2) から排気 E 1 (EXL1) へ

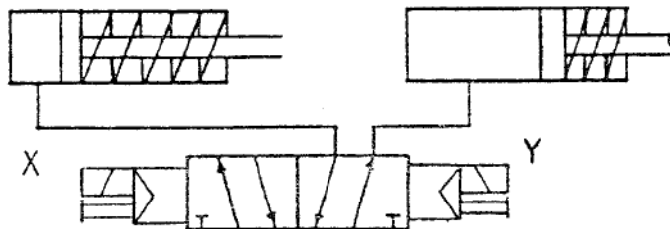


使用・配管方法・適用

- 2-1. シリンダに配管する場合、この電磁弁の C 1, C 2 のポートにシリンダのおのあのポートを接続する。

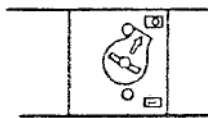


- 2-2. 単動シリンダに使用する場合、この電磁弁の片側のポートを使用し 3 ポート弁として使えます。



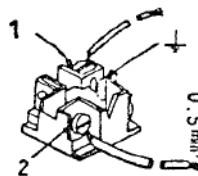
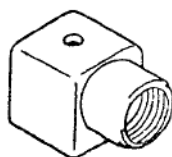
3. その他

- (1) この電磁弁は 2 ポジションタイプです。ニュートラルポジションではありません。
- (2) シリンダのスPEEDコントロールを要求する場合はスビコンを EXH 側に接続してください。
- (3) 電気信号以外でこの電磁弁を動作させたい場合は、電磁弁の所の親指大のコックを右へ (図 1) コインかマイナスドライバーで回わせば手動で動作させることができます。
上記の動作を終えたときはコックを元 (0) の位置へもどしておいてください。



配線上の注意事項

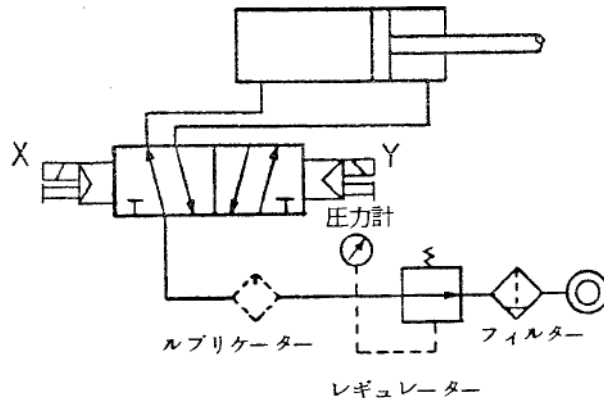
1. 配線用の電線は 0.5 mm² 以上のものを使い、コアの中にその電線の一部を入れ、ソケットのターミナルに接続してください。(1 または 2 のところ)
アースは ㊦ と書いたターミナルへ、必要な場合はこれに配線してください。



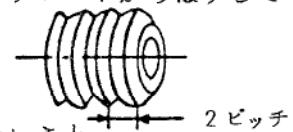
2. ヒューズは 0.5 ~ 1 A のものを回路に入れてください。

3. 回路にはリレーまたはマグネットSWのようなスナップアクションのものを入れてください。
4. 電線ケーブルの大きさは0.5~1.5mm²外径φ7~φ9まで使用可能です。ブッシングを締め込むことによってゴミ、水分の入るのを防ぎます。

配管上の注意事項



1. 配管は、流量が充分とれるサイズのものを使用する。
2. 電磁弁配管後、パイプの内側をきれいに、そしてバルブをサブプレートからはずしてエアフラッシングしてから取り付ける。
3. シールテープは端面から1~2ピッチ程離してまくこと。
4. PEポートを盲にすると、エキゾーストされないので盲にしないこと。
5. フィルタは必ず入れてください。
そして、もし必要ならバルブの側にルブリケーター(タービン油1種 ISO VG32)を入れてください。
6. このルブリケーターで電磁弁に必要以上給油しないでください。
7. 配管に際して、震動やショックの少ない所を選んでください。
8. 配管後、エアをかけて各所からもれのないことをチェックしてください。
9. メンテナンスサービスする場合の工具スペースをあけておいてください。



メンテナンスサービス

1. バルブの分解組立

- (1) 両側ソレノイド②の取付ビス⑫⑬を取りはずす。
- (2) 両側のパイロット弁本体③の取付ビス⑭を取りはずす。
- (3) シリンダ⑦をボディ⑨のY側に引き抜く。
- (4) ピストン組立⑤をボディ⑨のX側に押し内蔵物（シール組立⑧、スプール⑩、ピストン組立⑤、シリンダ⑦'）をボディより取りだす。

詳細は下図を参照ください。

2. ユニットを組み立てる前に、ホコリの少ない場所でピストン、スプール、スプールパッキンの内側などの表面にゴミがない様にきれいにふき取ってください。

